

深迫門跡ふかさこもんあと）周辺の調査

はじめに

唐居敷（からいしき）が「長者どんの的石」として知られていた。

*唐居敷・・・門の扉（とびら）の土台となる石。

（これまでの調査）

1次調査（1967年度）・・・深迫地区の地形調査と唐居敷周辺の調査

3次調査（1968年度）・・・深迫地区唐居敷周辺の追加調査

16次調査（1994年度）・・・谷頭全域の調査。版築土塁の確認。

28次調査（2006年度）・・・16次調査の確認とトレンチ調査による下層の確認調査。

◎これまでの調査成果

- (1) 鞠智城時代の最終段階の登城道の石敷きを確認。
- (2) 谷を狭めるための版築を確認。
- (3) 北側及び南側土塁裾に柱間1.8mの柱列を確認
- (4) 南側土塁幅約6.7m、高さ約4.0m以上、北側土塁幅15m、高さ約4.0m以上であることを確認。

→高さについては、北の園路側にも版築が見られることからさらにかなり高い土塁であったことは推定できていました。

◎2011年度 それまでの調査成果をまとめた総合報告書を発行

2015年度 第3次鞠智城跡保存整備計画を策定

2018年度 計画に基づく城門の整備のための発掘調査開始

2020年度の発掘調査

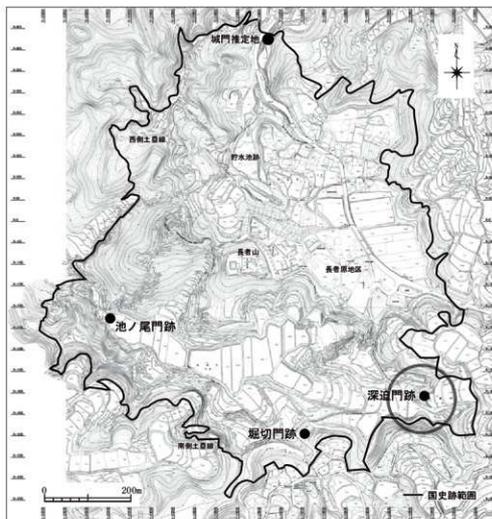
一深迫門跡推定地周辺横断面の調査一

（目的と方法）

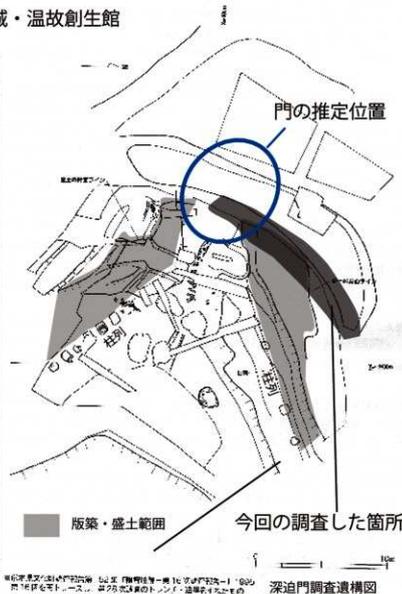
深迫門（ふかさこもん）のこれまでの調査で不明確であった尾根上部から登城道付近までの土塁構造と登城道の时期的変遷等を解明することを目的としました。

深迫門跡の推定地に近い28次調査（2006年度）の北西壁面面の再検証・再検討・土塁構造の解明のため、北西壁面を再調査。

また、さらに土塁下部の調査も行いました。



深迫門（ふかさこもん）調査区位置



深迫門調査遺構図

深迫門は鞠智城の南東の端にあたります。

◎今回の調査で判明したこと。

(1) 鞠智城跡深迫門の登城道の石敷きを再確認

①石敷き道路

上の層で黒色土器が出土。9・10世紀以降の鞠智城の最末期か城としての機能を失った段階か。黒いブロック状の土が谷部に厚さ約60cm以上の厚い層で堆積。その上に道路がつくられている状況。

②硬化した路面

石敷き道路のさらに下層で褐色層で硬くなった路面の一部を検出しました。



*石敷きは20cm前後の丸石を中心に利用。直線的に配置されている石敷き。



過去の調査で下層に波板状圧痕の登城道が確認されていた。今回は褐色層で硬くなった路面の一部が見つかりました。さらに下層にも土層が続いているため、下層に登城道が存在している可能性が高いことがわかりました。

(2) 積土の仕方が判明

*土塁を造るには、何段階も工程が伺えます。

また、積まれている土（積み土）も様々な種類があることがわかりました。

a. 角度

- ・斜めになっているもの。
- ・水平に積まれているもの。

b. 厚み

- ・積み土の厚さも 5cm ほどの細かい単位
- ・15cm 程度の厚さのもの。
- ・それ以上の厚みを持つもの

◎版築（はんちく）と積み土

版築・・・違う種類の層を交互に積み上げて、突き固めて強固な地盤を造る技術。寺院の基礎となる基壇や池の土手や堤防、たたら製鉄などの炉の基盤等をつくる際に使われる技術。

中国から朝鮮半島を経由して伝わった技術と考えられています。

積み土・・・「版築」と区別して、斜めに積んだ土やそれほど締まっていない土で人工的に積まれている痕跡があるものを「積み土」と表記しています。

*工程や場所により様々な土塁の積み方が観察できます。

IV 暗褐色の土を中心に黄色の粘土を少し混ぜた土を 15cm 程度の単位で積み上げています。



北側土塁の版築の様子がわかる断面写真 1



北側土塁の版築の様子がわかる断面写真 2

II 斜面堆積の地山の上に白色粘土・黄色粘土を中心とする土と褐色シルト層を交互に 60cm 程度の積み土

傾斜した積み土

確実にこれ以上は、段々畑造成の時に埋められた土と推定

新しい可能性が高い土（要検討）

階段状に造成した面

I 黒色の地山と推定できる斜面堆積の層の下部を幅 60cm 程度に 3 段以上の平坦面を造っています。（地山整形）

V 細かい版築に造成された版築状に埋められた層が見られます。柱穴などの掘り込みか門付近の地帯なのかなど現在その性格を確認中です。



門側の下層の土層の状況

III 5cm 程度の層を版築（はんちく）して壁を造っています。黄色粘土に白色粘土が混ざる層と暗褐色の土を交互に混ぜながら叩き締めて積みあげています。（版築土）

VI さらに新しい段階では、ブロック状の暗褐色の土を埋め込んで上層を平坦に整形している様子が伺えます。この段階が、鞠智城の最終段階か、鞠智城の機能が失われた段階のものか判断が難しいところです。